

リンテック統合報告書 2023

2023年3月期

CONTENTS

Value Creation

価値創造

- | | | | |
|---|----------|----|----------------|
| 2 | 社是・経営理念 | 8 | リンテックの価値創造プロセス |
| 4 | リンテックの歴史 | 10 | パフォーマンスハイライト |
| 6 | リンテックの強み | | |

Value Creation Strategy

価値創造戦略

- | | | | |
|----|------------------|----|--------------|
| 13 | 長期ビジョン「LSV 2030」 | 27 | 事業戦略 |
| 14 | 社長メッセージ | 27 | 事業統括本部長メッセージ |
| 20 | 特集 新たな価値の創造を目指して | 28 | 三つの事業セグメント |
| 24 | 財務戦略 CFOメッセージ | 30 | 印刷材・産業工材関連 |
| | | 32 | 電子・光学関連 |
| | | 34 | 洋紙・加工材関連 |
| | | 36 | 研究開発・知的財産戦略 |

Sustainability

サステナビリティ

- | | | | |
|----|---------------|----|--------------|
| 41 | サステナビリティ推進体制 | 50 | ガバナンス |
| 42 | マテリアリティ(重点課題) | 54 | 独立社外取締役メッセージ |
| 44 | 環境 | 56 | 役員一覧 |
| 47 | 社会 | 58 | 外部評価 |

Financial Information & Other Information

財務情報・その他情報

- | | | | |
|----|-----------------------|----|----------------|
| 60 | 財務サマリー | 65 | 連結株主資本等変動計算書 |
| 62 | 連結貸借対照表 | 66 | 連結キャッシュ・フロー計算書 |
| 64 | 連結損益計算書／
連結包括利益計算書 | 67 | 会社情報／株式情報 |

編集方針

本報告書は、株主・投資家の皆様に持続的成長と社会全体のさらなる発展への貢献を目指すリンテックグループについてご理解いただくことを目的としています。各種ガイドラインを参考に業績・財務情報だけでなく、当社グループが築き上げてきた研究開発力や人材力など、財務諸表には載らない“見えざる資産”についてもご紹介しています。なお、当社ホームページやサステナビリティレポートには、本報告書にはない情報も掲載しておりますので併せてご参照ください。

対象期間

本報告書は2022年4月1日から2023年3月31日までを対象としていますが、一部の情報については2023年4月以降の内容を含んでいます。

将来の見通しに関する記述

本報告書に掲載されている業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その内容の正確性を保証したり、将来の計画数値、施策の実現を確約したりするものではありません。実際の業績などは今後のさまざまな要因によって異なる可能性があります。

参考にしたガイドライン

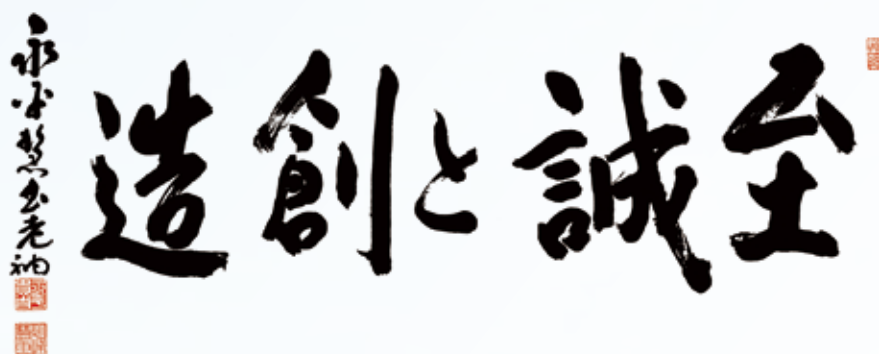
IFRS財団：「国際統合報告フレームワーク」 経済産業省：「価値協創ガイダンス」

Value Creation

価値創造

リンテックはこれまで築き上げてきた資産を最大限に活用して市場のニーズを満たす製品を開発し、それを国内外の多くのお客様に届けることで企業価値の向上を図っています。ここでは、当社グループの歴史や強み、価値創造プロセスなどについてご紹介します。

社是



経営理念

社名の「リンテック」、すなわち“リンケージ(結合)”と“テクノロジー”
および社是「至誠と創造」に裏付けされる人の和、技術開発力を
基軸とし、国内・海外の業界において、誰からも信頼される力強い
躍動感あふれる会社として社会に貢献し、株主各位・顧客・社員
家族の期待に応える斬新な経営を推進します。

明日を考え、今日を築こう
For tomorrow we build today

全てのステークホルダーと共に

当社の事業は、株主・投資家の皆様、従業員、お客様、サプライヤー、地域社会など、さまざまなステークホルダーに支えられて成り立っています。その期待に応え、信頼される企業であり続けるために、社は「至誠と創造」を根幹に置いた企業活動によって社会的責任を果たし、ステークホルダーの皆様との価値協創に努めてまいります。



リンテック株式会社



**誰からも信頼される
力強い躍動感あふれる会社として社会に貢献**

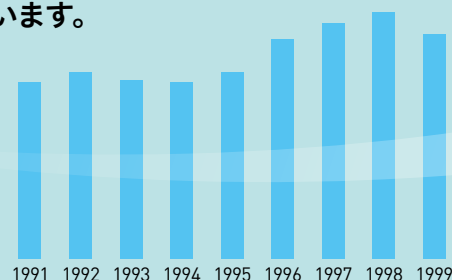


時代のニーズを捉えて 着実に成長

高度な粘着技術を有するメーカーと特殊紙の抄造技術および剥離紙・剥離フィルムの製造技術を有するメーカーとの垂直統合。それが、1990年の3社合併による「リンテック」誕生の大きな意義です。この3社合併以降、グローバル展開を加速させ、事業拡大を図っています。

1990年4月 リンテック株式会社誕生

FSK株式会社 (粘着製品などの 製造・販売)	四国製紙株式会社 (特殊紙や剥離紙などの 製造・販売)	創研化工株式会社 (粘着紙や剥離フィルムなどの 製造・販売)
-------------------------------	-----------------------------------	--------------------------------------



1990年まで

粘着製品の一貫生産体制を構築し、 独自の事業構造を確立

1927年に包装用ガムテープの製造・販売で創業した当社は、1960年代に入り現在の主力事業であるラベル用粘着紙・粘着フィルムの製造・販売を開始しました。その後、自動車関連などの工業分野に粘着事業の業容を拡大し、FSK株式会社に商号変更後の1986年には半導体関連分野に本格参入。そして1990年、上記の3社合併によって粘着製品の一貫生産体制を構築し、粘着製品メーカーでありながら剥離紙・剥離フィルムや特殊紙といった幅広い製品を展開する当社独自の事業構造を確立しました。



木箱に代わって段ボールが普及したことに伴い、需要が拡大した包装用ガムテープ



半導体業界に大きな革新をもたらしたUV硬化型ダイシングテープ

1990年代～2000年代



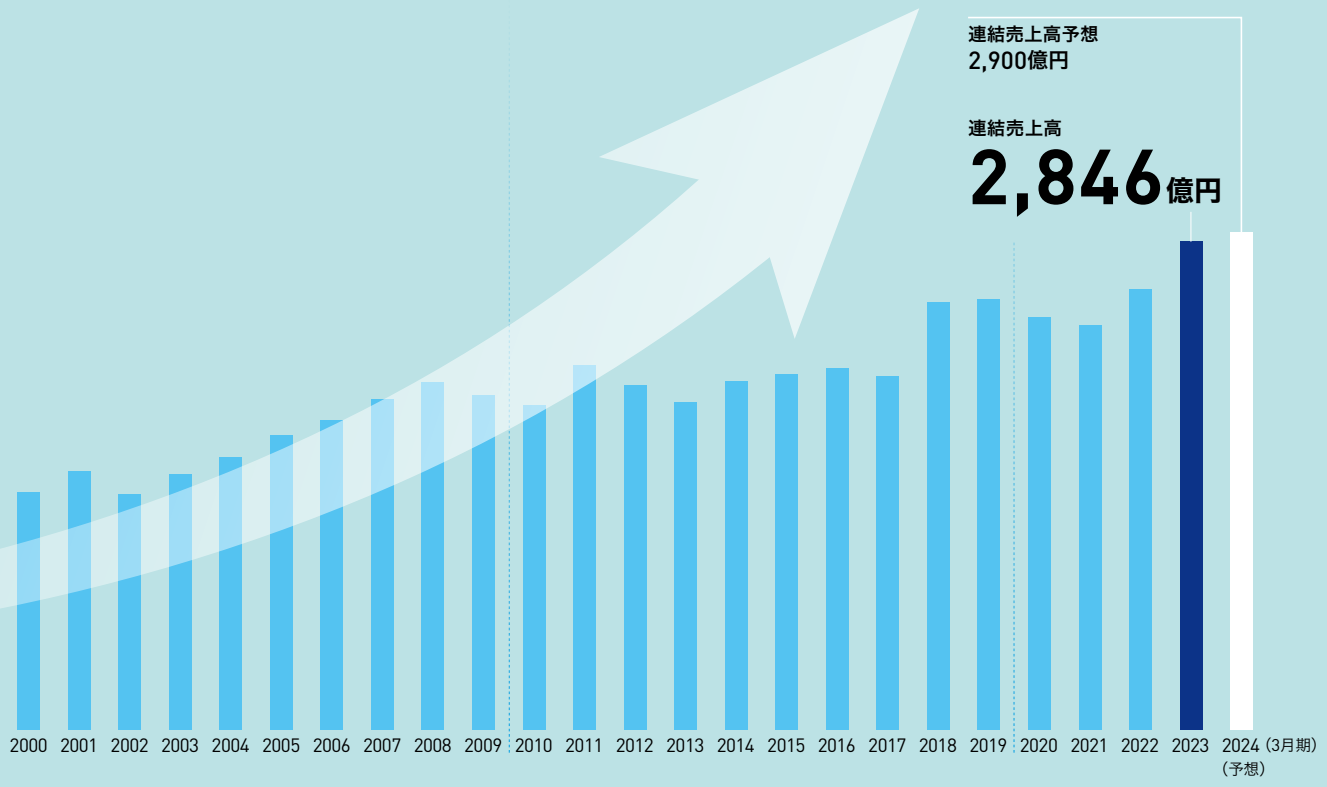
ラベル用粘着製品や合成皮革用工程紙の製造・販売拠点である琳得科(蘇州)科技有限公司(中国)

半導体関連粘着テープや積層セラミックコンデンサ関連テープの製造・販売拠点であるリンテック・コリア社(韓国)



アジア地域を中心に 事業のグローバル化を加速

1990年代以降、当社では積極的な海外展開を図っていきます。1994年、インドネシアにラベル関連の製造子会社を設けたほか、1995年にはオランダとシンガポールに販売子会社を設立。2002年には中国の主力生産拠点である琳得科(蘇州)科技有限公司を設立しました。また、エレクトロニクス市場の拡大を受け、2000年前後からは光学ディスプレイや積層セラミックコンデンサ、半導体関連製品の製造子会社をマレーシア、台湾、韓国に相次いで設立するなど、アジア地域を中心に事業のグローバル化を加速させました。



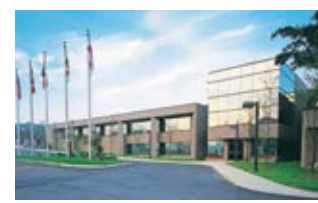
2010年代

国内外の生産・研究開発体制を拡充し、事業基盤を強化

2010年にラベル用粘着製品の主力生産拠点である龍野工場(兵庫県)の再構築を完了させたほか、2011年に同製品の製造子会社をタイに設立。2013年にはカーボンナノチューブ関連技術の研究開発拠点を米国に開設しました。2015年には研究所(埼玉県)に最新鋭の研究機器や大型テスト塗工設備などを導入した先端技術棟を新設。2016年にはラベル用粘着製品の大手メーカーであるマックタック・アメリカ社を含む欧米3社の買収を行うなど、国内外で生産・研究開発体制を拡充し、事業基盤を強化しました。



先端技術棟に導入された大型テスト塗工設備



ラベル用粘着製品などの製造・販売拠点であるマックタック・アメリカ社

2020年代



ペットボトルからつくられた再生PET樹脂を表面基材の原料に使用したラベル用粘着フィルム



米国の粘着製品メーカーの事業を買収して設立したスピネカー社

長期ビジョンの実現に向け、成長分野の拡大に注力

2021年から長期ビジョン「LSV 2030」を掲げ、持続的成長とサステナブル社会実現への貢献を目指し、各施策を推進しています。特に今後の大きな需要増加が期待されるエレクトロニクス関連製品の増産投資や、CO₂排出量削減に向けた環境対策投資を積極的に行っているほか、ニーズが高まる環境配慮製品の開発・拡販を強化。北米ラベル市場においては、M&Aによる生産能力増強などでシェアアップを図るとともに、リンテックグループのシナジー効果発現などによって事業を拡大しています。

成長を支える三つの強み

1990年の3社合併以降、安定的な成長を続けてきたリンテック。四つの基盤技術を駆使して生み出される幅広い製品群、マーケット対話型の研究開発と顧客ニーズに応える製品カスタマイズ力、そして積極的に拡充を図っているグローバル生産・販売体制が当社グループの競争力の源泉となっています。

強み
1

四つの基盤技術を駆使して生み出される幅広い製品群

リンテックは長年培ってきた基盤技術を駆使して、幅広い製品ラインアップを展開しています。主力のラベル用粘着紙・粘着フィルムをはじめ多くの分野で使用されている各種粘着製品、特徴的な色合いや風合い、機能などを付与した特殊紙、粘着製品の粘着剤面を保護する剥離紙・剥離フィルム、自社の粘着製品の特性を最大限に引き出す貼付・剥離装置などをさまざまな市場に供給。四つの基盤技術とそれらを組み合わせて生み出される多彩な製品が、当社の特徴である「素材と装置のトータル提案」や粘着製品を剥離紙用原紙から内製できる「粘着製品の一貫生産」を実現しています。



カラー封筒用紙



ラベル用粘着製品



半導体関連粘着テープ

四つの
基盤技術

粘着応用技術

粘着剤の開発・
配合・塗工技術

表面改質技術

各種表面コート剤の
開発・配合・塗工技術

特殊紙・
剥離材製造技術

抄紙技術、剥離剤の
開発・配合・塗工技術

システム化技術

貼付・剥離・加工関連
装置の開発技術

幅広い
製品群

粘着製品

剥離紙・
剥離フィルム

特殊紙

関連装置

日用品・食品・医療・医薬・物流・建築・通信機器・家電・モビリティ・文具(封筒)・航空機 など

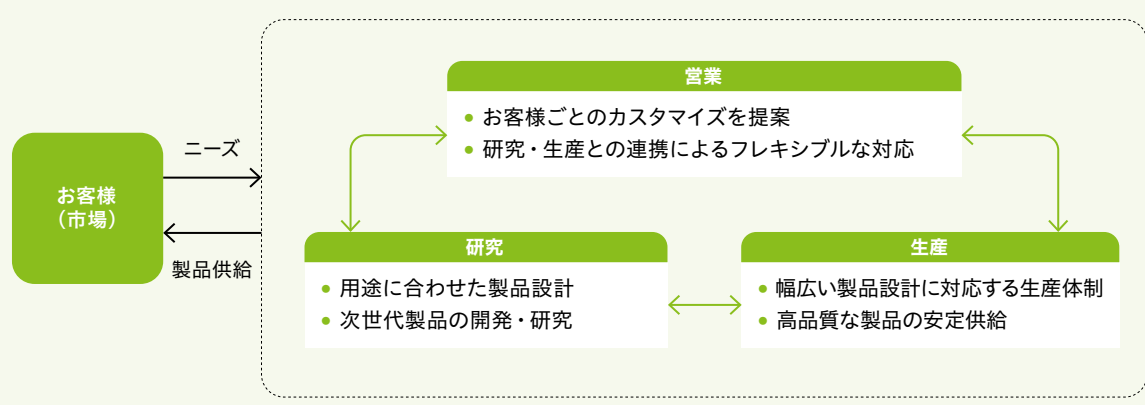
さまざまな
市場に提供



強み
2

マーケット対話型の研究開発と顧客ニーズに応える製品カスタマイズ力

当社では研究員が営業担当と共にお客様の元に足を運び、研究員ならではの視点と情報収集力でニーズを的確に把握する“マーケット対話型”の研究開発を推進しています。開発から製品化までの各プロセスにおいて研究、生産、営業が一体となって取り組み、お客様ごとの要望に迅速かつきめ細かに対応。この顧客ニーズに応える製品カスタマイズ力によって顧客満足度を高め、各市場で確固たる地位を築いています。



強み
3

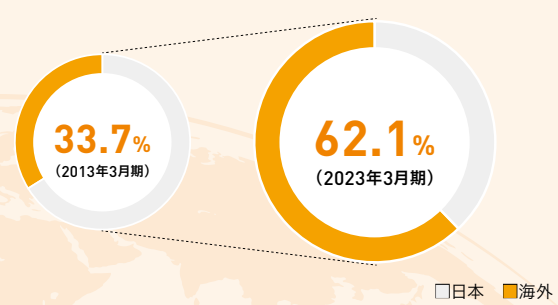
積極的に拡充を図っているグローバル生産・販売体制

当社ではお客様により近いところで製品を生産し、安定的に供給していく「メイド・イン・マーケット」の考え方に基づき、子会社の設立やM&Aなどによって海外の生産・販売体制を拡充し、事業のグローバル化を推進してきました。現在では19の国と地域に拠点を展開。約40の連結子会社と5,000人以上の連結従業員を有し、海外売上高比率は62%を超えています。今後、未進出地域への展開も視野に、グローバル生産・販売体制のさらなる拡充を図っていきます。

グローバルネットワーク(2023年3月末)



海外売上高比率



リンテックの価値創造プロセス

創業から現在に至るまで、リンテックグループは技術力や多様な人材、ステークホルダーとの信頼関係など数多くの“資産”を築き上げてきました。社は「至誠と創造」の下、これらの資産を活用してさまざまな製品を開発・製造・販売し、社会や顧客の課題解決に貢献しています。ここから生み出された利益をステークホルダーに還元するとともに、将来への投資を積極的に行うことでさらに新たな価値を創造していく。当社グループでは、この価値創造プロセスを通じて持続的な成長と社会の発展を両立させ、サステナブル社会の実現を目指しています。

築き上げてきた資産

独自の技術力



国内外における充実した
製品供給体制



多様な人材と
企業風土



強固な財務基盤



ステークホルダーとの
信頼関係



INPUT

リンテック独自の強み



社会からの要請
市場のニーズ
メガトレンド

外部の技術

サステナブル社会の 実現に貢献

長期ビジョン



- 重点テーマ
- ① 社会的課題の解決
 - ② イノベーションによる企業体質の強靱化
 - ③ 持続的成長に向けた新製品・新事業の創出

経済的価値の
創出

社会的価値の
創出

OUTCOME

OUTPUT

環境負荷の
低減



社会のデジタル化を
推進



暮らしに不可欠な
製品を安定供給



幅広い市場に製品を供給



P30 印刷・情報材事業部門

P31 産業工材事業部門

P32 アドバンス
マテリアルズ事業部門

P33 オプティカル材事業部門

P34 洋紙事業部門

P35 加工材事業部門

パフォーマンスハイライト

リンテック株式会社および連結子会社（環境関連情報はリンテック単体）の数値です。各年度の表示は3月31日に終了した期を表しています。

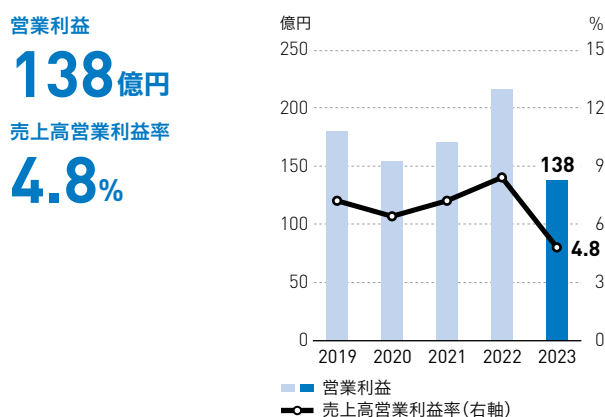
財務情報

売上高



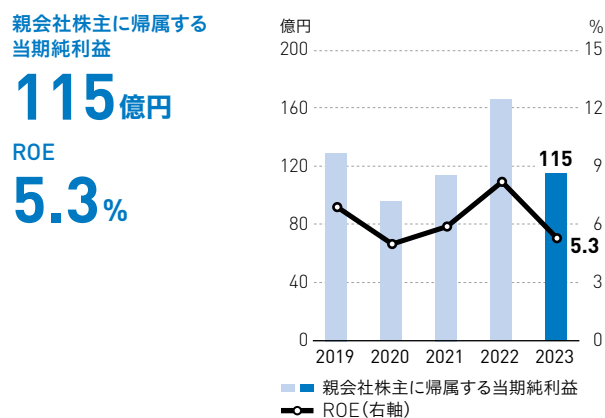
米国での事業買収により設立した新会社が業績に貢献したことに加え、円安の進行による増収効果などがあり、売上高は過去最高の2,846億円となりました。

営業利益／売上高営業利益率



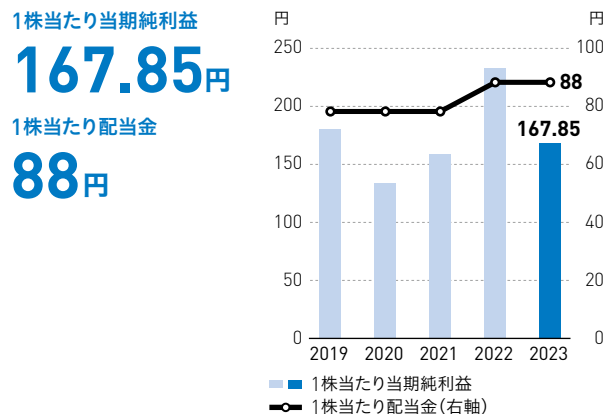
主要原材料であるノリレブや石化原材料の価格高騰に加え、エレクトロニクス市場の急激な落ち込みによる電子・光学関連製品の需要減少などにより、大幅な減益となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益／ROE



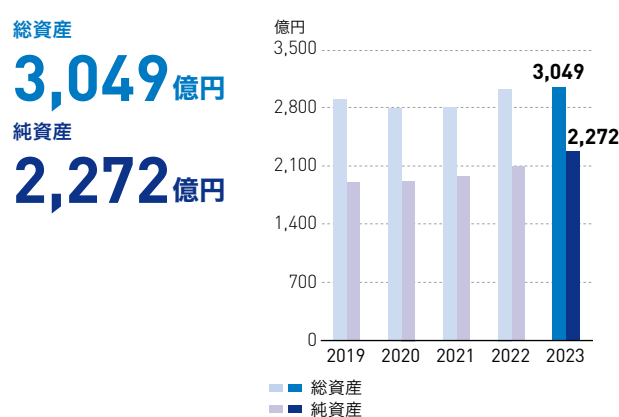
円安の進行により為替差益は増加しましたが、営業利益が減少したことなどにより、親会社株主に帰属する当期純利益は減少し、ROEも大幅に低下しました。

1株当たり当期純利益／1株当たり配当金



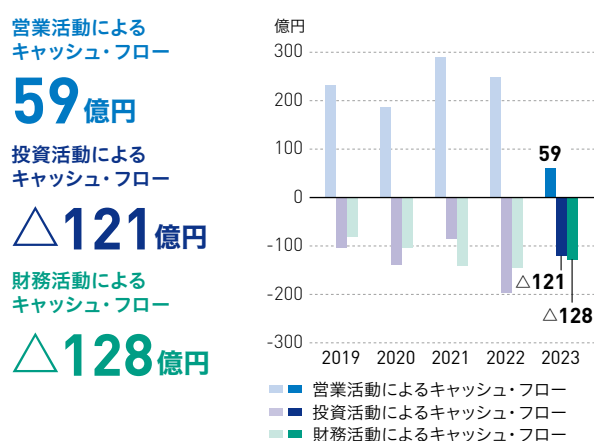
1株当たり当期純利益は167.85円となりました。安定的かつ継続的な配当を行っていくという基本方針の下、1株当たり配当金は前期と同じく88円とし、配当性向は52.4%となりました。

総資産／純資産



米国での事業買収や調達コストの上昇などにより総資産は増加し、円安の進行による為替換算調整勘定の増加などで純資産も増加しました。なお、自己資本比率は74.2%となりました。

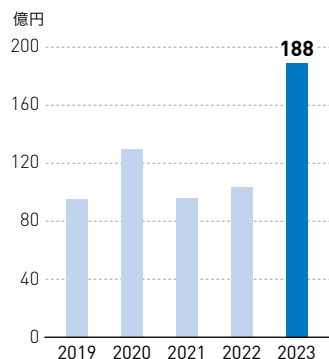
キャッシュ・フロー



営業活動によるキャッシュ・フロー (CF) は「+」、投資活動によるCFは設備投資の増加などにより「-」、財務活動によるCFは自己株式の取得などにより「-」となりました。

設備投資額

188億円



半導体関連粘着テープや積層セラミックコンデンサ関連テープの生産設備の増設、各生産拠点でのCO₂排出量削減対応設備の導入などにより、設備投資額は過去最大の188億円となりました。

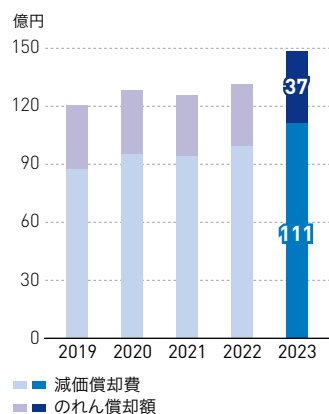
減価償却費／のれん償却額

減価償却費

111億円

のれん償却額

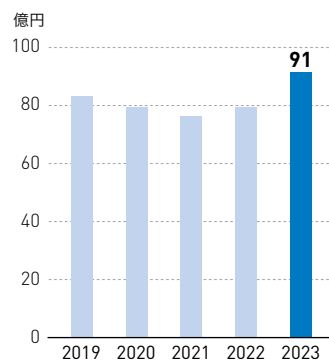
37億円



減価償却費は111億円となりました。のれん償却額は、2016年末のマックタック・アメリカ社の買収に伴うのれん償却を中心に37億円となりました。

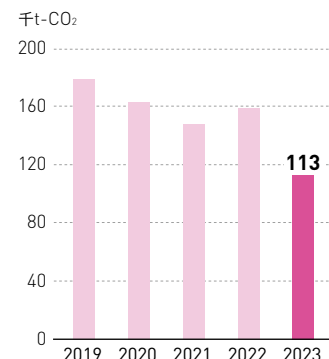
研究開発費

91億円



研究開発費は過去最大の91億円となりました。内訳は印刷材・産業工材関連で33億円、電子・光学関連で43億円、洋紙・加工材関連で14億円となっています。

非財務情報

CO₂排出量113千t-CO₂

各生産拠点において環境負荷低減に向けた新規設備の導入を推進したことなどにより、CO₂排出量は前期比46千t-CO₂減の113千t-CO₂となりました。

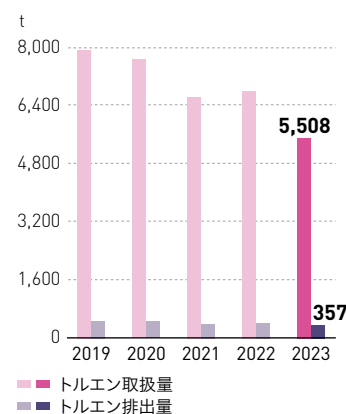
トルエン取扱量／トルエン排出量

トルエン取扱量

5,508t

トルエン排出量

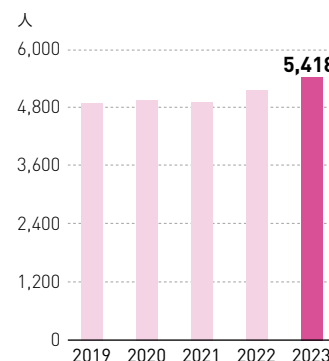
357t



揮発性有機溶剤であるトルエンは主に粘着剤・剥離剤の塗工時に使用され、当社ではその取扱量・排出量の低減を目指しています。当期は無溶剤化の推進などにより、それぞれ減少しました。

従業員数

5,418人



連結従業員数は前期末比260人増の5,418人となりました。なお、リンテック単体の従業員数は前期比8人減の2,620人となっています。